

2016年

# 中国語短期語学研修報告書

8月14日～8月27日

於：北京外国語大学



お茶の水女子大学

中国語圏言語文化コース



## はじめに

中国語圏言語文化コース 宮尾正樹

今回の研修は大学主催の海外中国語研修としては2回目にあたり、無事成功裏に終了した。研修先は昨年同様、本学と交流協定を結んでいる北京外国語大学である。今回も参加者は日本学生支援機構（JASSO）及び本学独自の奨学金による支援を受けることができた。

第1回研修の成果を基に、今回は以下の点で昨年と異なる取り組みを行った。

### 1) 実施時期の変更

これは主として、受け入れ側の事情による。9月は学年の始まりで、短期研修の受け入れ態勢を整えるのが困難だということで、実施時期を夏休み中の8月に変更した。

### 2) 宿舎の変更

昨年は大学までバスで通わなければならないビジネスホテルが宿舎となったが、今回は大学構内にあるホテル「北外賓館」を宿舎とし、通学の便が格段によくなった。生活の領域が狭くなったとも言えるが、学生たちは午後の自由時間に積極的に外に出かけており、影響は小さかったと思われる。

### 3) 他大学との合同授業

昨年は本学学生のみでクラス編成したが、今回は東京学芸大学の学生との合同クラスとした。その結果、昨年の2クラスから3クラスへとクラスが増え、よりきめの細かい習熟度別編成が実現した。また、他大学の学生との交流も行うことができ、この試みは成功であったと評価できる。

### 4) 企業訪問の回数増加

昨年はキャノンの現地法人1社を訪問したが、教員側の予想を超えて学生たちに強い印象を与えたようであったので、今回は電通とKDDIの2社に訪問先を増やした。実際に現地で働く方々の話は学生たちにとって今回も印象深かったようである。

研修の中心となる中国語の授業は、対外漢語教育に熟達した北京外大の先生方のおかげで、短期間ながら実りあるものとなった。昨年の研修実施後に行ったHSK団体受検の結果が示すように、参加者の語学力、特にリスニングの力が顕著に向上していることが期待される。同時に、本冊子に収められた学生のレポートから、研修の経験が今後の学習の強い動機付けになることも期待される。

来年度もJASSOの奨学金の採用が決まっており、主催学科として、いっそう充実した語学研修となるように準備を進めていくつもりである。

最後になるが、引率教員の馮日珍先生、曹泰和先生、アドバイザーの蒲夏禹さん、本学グローバル教育センター、国際課、北京外国語大学留学生弁公室、毎日エデュケーション等々、研修の成功のために力を尽くして下さった方々に感謝申し上げたい。

## 目 次

はじめに 中国語圏言語文化コース 宮尾正樹

研修日程

学生レポート

青柳 里咲	文教育学部 1年	有意義な二週間@北京
足立 里穂	生活科学部 2年	食文化の違いを探しに
伊藤 真季江	文教育学部 1年	短期研修を終えて
川上 紗季	理学部 2年	北京語学研修に参加して
川崎 歩	文教育学部 1年	「外国人」として生活した2週間
川瀬 翠	文教育学部 1年	北京短期留学を終えて
菊地 真由	文教育学部 2年	6回目にして見えたこと
木村 真央	文教育学部 1年	語学研修報告書
小池 美緒	文教育学部 1年	北京語学研修事後レポート「語学の力」
古作 優美	文教育学部 1年	二度目の北京で
染矢 桃香	文教育学部 1年	北京語学研修
張 莉佳	文教育学部 3年	北京新発見
中島 綾美	文教育学部 1年	2016年中国語語学研修
長島 楓	理学部 1年	語学研修を終えて
長谷川 紗也	文教育学部 1年	一言では言えない中国
長谷川 千晶	文教育学部 2年	満喫しすぎた北京生活
松尾 知歩	文教育学部 1年	北京語学研修を終えて
宮崎 真帆	文教育学部 3年	中国研修記
吉富 帆乃夏	文教育学部 1年	北京生活2週間で感じたこと

アドバイザーから

蒲 夏禹 皆さん、ありがとう

引率教員から

外国語教育センター 馮 日珍  
外国語教育センター 曹 泰和

アルバム

## \*\*\* 研修日程 \*\*\*

		午 前	午 後 ・ 夜
8月14日	日	9:25 発 NH-961 便 北京へ	12:20 北京首都国際空港到着 北外賓館チェックイン 生活準備
8月15日	月	開講式・クラス分け試験 中国語授業開始	昼：歓迎会、校内参観
8月16日	火	8:00-12:00 中国語授業 (50分×4コマ)	
8月17日	水		午後：天安門広場、故宮博物院、景山公園 見学 夜：京劇鑑賞
8月18日	木		企業訪問① 電通
8月19日	金		
8月20日	土		
8月21日	日	万里の長城 (八達嶺)	明の十三陵 (定陵・神路) 見学
8月22日	月	8:00-12:00 中国語授業 (50分×4コマ)	
8月23日	火		午後：国家博物館 夜：中国雑技鑑賞
8月24日	水		企業訪問② KDDI
8月25日	木		
8月26日	金		修了試験
8月27日	土		15:35 発 NH-962 便 帰国 20:00 羽田空港到着



## \*\*\*学生レポート\*\*\*

有意義な二週間@北京

文教育学部人文科学科 1年 青柳里咲

入学式前後に数日間行われたオリエンテーションでこの研修が開催されることを聞き、大学では海外に行ってみたく思っていた私はすぐに興味を持った。二週間の研修を終えて帰国した今、参加を決めて本当に良かったと思っている。第二外国語として数か月前に習い始めたばかりの語学力での訪中に少し不安もあったが、先生方のお力もお借りしながらみんなで乗り切ることができた。中国に行ってよかったと思うことの一つは海外で生活するとはどういうことかを肌で感じられたことだ。私は今まで一度も海外に行ったことがなかったため、外国人として異なる文化を持つ人に囲まれる生活の何もかもが新鮮だった。お店に行って何か頼みたくても中国語のメニューが読めなくて指差して頼んだり、お会計時に値段が聞き取れず書いてもらったり、時には催促されて怖い思いをしたりもした。特に印象に残っているのは天壇公園での入場券を買うときのこと。私たちは学生証を一枚出し指で9と示しながら「九个学生」と言ったつもりだったが、渡されたのはオレンジの入場券1枚と青い入場券4枚だった。オレンジの入場券は5人分だと解釈して入場ゲートに行くと、5人までで打ち切られて他の4人は入らせてもらえず、全員で所定の値段を払ったことを何とか伝えようとしても頑なに拒否されて泣く泣く追加で入場券を購入した。その後、オレンジのみが学生で他は大人の入場券だったことに気づいたがもう遅かった。また日本と中国では「9」の指での示し方も違うようだ。そんなことに気付かない私たちは、入場ゲートでも中国語で何か言われて通らせてもらえず、入場券売り場の方も無愛想だったので脅されているようにさえ感じた。日本であれば日本語で「全員分の学生証のご提示をお願いします」と言われればすぐにわかり、何事もなく9人全員が学生券を購入して入れたと思うが、何を言われているのかわからないためにあんなにも恐怖を感じたことは今では笑い話でいい経験だ。私の拙い英語にもほとんど耳を傾けて貰えないため、中国語ができなければ生活できないと痛感した。ただ、反対に、中国語が話せれば14億人もの人とコミュニケーションが取れると思うとわくわくする。正直たった二週間で中国語の語学力は伸びないが、生の中国語に触れる中で、数こそ少ないが自分の中国語が通じたときや相手の中国語が理解できたときの喜びは、これからの学習におけるモチ

ベーションアップにつながった。また来年以降グローバル文化圏と日本語教育を専攻するにあたって、異文化を感じる貴重な経験ができた。最後に、思う存分に繰り出してたくさんの思い出を作らせてくれた友人たちをはじめとする語学研修参加者の皆様、この研修の企画や引率をしてくださった先生方に感謝します。谢谢！



撮影：張

食文化の違いを探しに

生活科学部食物栄養学科 2年 足立里穂

私がこの研修に参加しようと思った理由は、中国は今まで行ったことがなく、学生で時間があるうちに行ってみたく思ったから、食物栄養学科である身として本場の中華料理を食べ、どのようなものか研究したかったからである。語学を専攻しているわけではないためどちらかというと言学よりも文化(もちろん主に食文化)のほうに興味があり、参加を決定した。

北京に着いたその日から本場の中華料理を食べることができた。中国では円卓を10人弱で囲んで座り、様々な料理を少しずつ取って食べるスタイルが基本だった。日本では昔から一人一人別に盛られることが普通だったと以前聞いたことがあり、第1日目から文化の違いを感じた。日本では中華料理は4つに分けられているが(北京料理・上海料理・四川料理・広東料理)、私が授業を受けたクラスの先生は、中国では分類はあまり気にしておらず、例えば辛いものなら四川料理かなと思うくらいだとおっしゃっており、新たな発見もあった。料理の名前は基本、食材と切り方や調理法で付けられていて、それさえわかればなんとなく想像はできたが、日本では見たことのないような漢字が使われていることもあり、一緒にご飯を食べに行った友達と「これ何かな〜?」「よくわからないけどとりあえず注文してみるか!」ということも多く、ご飯を食べるときは出てくるまでどのような食べ物が出てくるかわからないハラハラ感を味わうことができ、とても楽しかった。(想像と違うものが出てき

たこともよくあり、それはそれで面白かったしいい思い出になっている。)朝食は家ではなくお店で食べるという文化もあるらしく、早朝から営業している店が多く、朝から混雑していた。お店で買ったものを家に持ち帰る人も多く見かけた。私も友達と一緒に毎日どこかに朝食を食べに出かけた。朝食はおかゆや麺、肉まんや油条(揚げパンのようなもの)、豆乳や豆腐脳(豆腐にきのこや生姜などが入った餡がかけられているもの)などが定番で、私は油条や豆腐脳を食べることが多かった。また、日本のように水が無料で出てくることはあまりなくお水を注文すると温かいお湯かお茶がくる、というのも文化の違いだなと感じた。自販機が全然なかったため冷たい水は簡単には手に入らなかったが、ドリンクスタンドはたくさんあり、美味しいフルールジュースやタピオカミルクティーなどを毎日のように飲んでいた。

このように食文化だけに焦点を当てても数え切れないほどの違いがあり驚きの連続だった。二週間というある程度まとまった期間北京に滞在できたことで発見できたことも多々あると思うので、今回の研修に参加して本当によかったと思っている。もちろん語学も毎日の授業のおかげでかなり上達したと思うし、中国語に対する抵抗は全くなかった。しかしまだまだ聞き取りはほとんどできないし、うまく文を作ることもできない。そのため、お店で質問したいことは色々あったが質問できなかったことを後悔している。もっと中国語を勉強してより深く文化を理解できるようになりたいと感じた。



朝食の「油条」と「豆腐脳」



## 短期研修を終えて

文教育学部人文科学科 1年 伊藤真季江

この短期研修に参加して本当に良かったと思います。2週間毎日刺激的でした。行く前は、授業が中国語って本当に大丈夫かなと思っていましたが、大変なのは授業ではなく授業以外の生活でした。授業は、2日目のテストでクラス分けをして自分に合ったクラスで授業を受けられました。先生もすごく優しい方で、私たちが必死に中国語を話すのを先生も必死に聞いてくださいました。授業内容も様々な工夫をしてくださり、中国語の歌を歌ったり、映画を観たりしました。おかげで、毎日楽しく授業を受けられました。

私はもともとスケジュールにあった観光地も含め、本当にいろいろなところに行きました。移動は地下鉄かバスでしたが、地下鉄に乗るときには荷物検査があり、はじめはそれだけで緊張しました。地下鉄やバスに乗るために、日本のPASMOのようなカードを作るときに、そろそろと並んでいたら、さっと現地の人に横入りされ皆思わず笑ってしまいました。そこで改めて「海外にいるんだ」と実感しました。もともとスケジュールにあったのは、天安門広場、故宮、景山公園、京劇観賞、万里の長城、明の十三陵、国家博物館、雑技観賞でした。ほかに自由時間には、頤和園、北京動物園、オリンピック公園、ショッピング、后海、前門、天壇公園、雍和宮、天文台に行きました。「せっかくの機会だからできるだけ多くのところへ行こう」とみんな張り切っていました。私も張り切っていましたが、3日連続サンダルで歩き回っていたら、両足の踵に靴擦れができてしまいました。みんな気を使ってくれて、絆創膏をくれた子もいました。おかげで次の日からもみんなと一緒に観光に行くことができました。研修中は常に友達と一緒にでした。友達といってもこの研修中に友達になった子たちです。一緒に授業を受けて、ご飯を食べて、観光に行って、夜一部屋に集まって次の日の予定を立てて、朝から晩までずっと楽しかったです。この研修で私は得たものがたくさんあります。まず、中国語が少し上達しました。最終日北京の空港での持ち物検査の際に「腕時計を持っているか」と聞かれたのが聞き取れてすごくうれしくて、自信をもって「持っていない」と言いました。次に、自分の進路を考えるうえでの判断材料を得ました。今回お茶の水女子大学のプログラムで、2社の企業訪問に行きました。その社員の皆さんが「語学は若いうちに」とおっしゃっていました。私は今まで、留学なんて全然考えていませんでしたが、社員の方のお話と先生のお話を聞いて、考え

でもいいかなと思うようになりました。そして、一番は普段同じ教室で授業を受けている子たちと仲良くなったということです。みんなには、本当に感謝しています。2週間ずっと楽しかったのはみんなのおかげです。また、今回の研修を企画してくださった先生方などにも感謝しています。本当にいい経験をさせていただきました。今回の経験をこれからの進路に活かしていきたいと思えます。

#### 北京語学研修に参加して

理学部数学科 2年 川上紗季

8月14日から27日までの2週間の間、北京語学研修に参加してきました。始まったばかりの頃は、2週間はまだまだ先のように感じていましたが、あっという間の2週間でした。今回の研修では、平日は午前中に授業を受け、午後からは自由行動で、土日は終日観光でした。

授業は、ほとんど中国語で行われ、分からない時には英語でフォローしてもらいました。私にとっては、授業のレベルが高くて、ついていくのがとてもたいへんでした。道案内や買い物交渉などを模擬的にする会話の授業は難しかったです。教科書があったのですが、教科書以外のことも多く扱われたので、予習だけではどうしても対応できない面がありました。しかし、この授業を通してとても多くの単語を覚えられたと思います。その他にも、中国語で歌をうたったり、クレヨンしんちゃんなどのアニメの中国語版を見たりし、大変でしたがとても楽しく、有意義な時間となりました。

自由時間では、本当にたくさんの場所をめぐるしました。どの観光地もとても広く、中国に行っていた間の一日の歩数は普段とは比べ物にならないほどでした。一番思い出にのこっているのは万里の長城です。とても暑い日でしたが、青空で景色がとてもきれいでした。2日目に行った動物園では、パンダを見ることができ、とてもよかったです。日本と違って、動物園もとても広く、パンダを見つけるのがとても大変でした。

今回の研修では、企業見学があり、電通さんとKDDIさんに伺いました。どちらの会社もとても立派なオフィスで、働いている方々はとてもキラキラしているように感じました。様々なお話を聞いて本当に有意義な経験となり、自分も将来海外で働いてみたいと感じました。

今回の研修で一番困ったことはトイレです。とにかく汚かったです。想像の100倍くらい汚かったです。今、思い出すのも嫌なほどです。これから初めて中国に行く

人は覚悟してください。何度も書きますが、本当に汚いです。初日にトイレトーパーは水に流すなどと言われたときには、とんでもないところに来てしまったと思いましたし、研修を通してトイレに行く回数が減りました。また、英語がほとんど伝わらず、銀行で換金する際や、店で買い物するときに少し焦りました。

困ったこともありましたが、スリにさえ注意すれば、中国の方はとても優しい人が多く、中国に対するイメージが変わりました。空気は、汚い時ももちろんあり遠くが霞んで見える日もありましたが、とてもきれいでマスクの必要がない日のほうが多かったです。とても充実した2週間となり、この研修を通して、中国語をもっと話せるようになりたいと思うようになりました。



万里の長城で

#### 「外国人」として生活した2週間

文教育学部人文科学科 1年 川崎 歩

私は今まで海外には一回だけ、それも数日しか行ったことがありませんでした。そんな私にとって、今回の研修はとても長く、肉体的にも精神的にも疲れるものでした。しかし今回、中国で2週間生活をしてみて様々なことに気づかされました。

意外にも英語という言葉の大切さに気付かされました。中国では銀行などでは英語を話せる人がいましたが、一般的なお店ではほとんど英語が通じませんでした。そのため自分の言いたいことは中国語で話さざるを得ませんでした。私はまだ学習歴が浅いため、相手が言っていることがほとんど理解できず、また自分の言いたいことを中国語ではうまく伝えられることができず、大変苦勞



しました。ここから考えたこととして、中国と同様に日本でも一般的なお店では英語を話せる人は多くありません。そのため今回「外国人」として中国を旅行し、英語の通じなさに苦労しましたが、同じように日本を訪れている外国人も言語の面で苦労しているのではないかと考えるようになりました。ここは日本も改善すべき点だなと思いました。

日本で語られている中国のイメージはあまりいいものではありません。そのため研修に行く前は少し不安を感じていました。実際に過ごしてみて、意外にも暮らしやすいことが分かり、中国に対するイメージが変わりました。確かにトイレがきれいではなかったり、空気が悪く近くのビルがかすんで見えない日もありました。しかし実際に行って生活してしまえば慣れてしまいそれほど気になりません。物価は比較的安く、食べ物も味が濃いです。私たちが日本語で話しているときに興味を持って話しかけてくれ、道案内をしてくれた人もいました。また今まで全くイメージがなかったのですが、セキュリティが意外と厳しいことに驚きました。地下鉄を利用する際も、ペットボトルの中身を調べられたり、国家博物院ではパスポートが必要だと言われたり、利用する身としては面倒に感じることもありましたが、日本が見習うべき点なのではないかと考えました。

実際に中国に行ってみて、文章には表せないくらい多くのできことを経験することができました。日本とのさまざまな違いに気づくことができましたし、海外で「外国人」として暮らすことで、普段日本を訪れる外国人はどのように思うのか、を少し意識できるようになりました。語学の面では、数ヶ月しか学んでいない中国語が通じたとき、相手の言っていることが分かったときの喜びを味わうことができました。また言いたいことが伝わらないもどかしさも味わうことができました。語学の勉強に対するモチベーションは確実に上がったと思います。正直に言うところこの研修に参加するかどうかはすごく迷って、勢いで申込用紙を提出しました。実際に参加してみて有意義で楽しい二週間を過ごすことができ、大変よかったです。

## 北京短期留学を終えて

文教育学部言語文化学科 1年 川瀬 翠

「更上一層楼」。遠くを見るためにはより高いところに登らなければならない。このプログラムで私が得たものは、積極的に行動する姿勢である。言葉すらわからない、マナーも知らない、そんな土地でどう行動してよいか分

からなかった私も、二週間の間に、とりあえず動いてみよう、何かよい展開になるかもしれない、と考え、前向きに行動するようになった。このプログラムに参加できて本当に良かったと思う。

このプログラムでは、中国語の授業以外、基本的に先生の引率なしで、自分たちで計画して行動する。長期の留学とそれほど変わらない生活ができるのである。これは非常に良い経験となった。言葉の通じない、異文化に住む相手と、その文化に親しんだ人の助けを借りずに交流する機会など滅多にない。最初は料理の注文すら緊張し、店員さんとうまくコミュニケーションが取れずに、少し嫌な顔をされて落ち込むこともあった。しかし、何とかして相手の言いたいことを汲み取り、自分の気持ちを表現することで、徐々に生活に慣れたような気がする。そしてだんだんと、自分の言いたいことが中国語で伝わる回数も増え、ととても嬉しかったのを覚えている。その経験がまた、私のチャレンジ精神を奮い立たせてくれた。

また、他に印象に残っていることとして、文化の豊かさがある。歴史的建造物が多く、そしてその地を訪れる人の多さに驚いた。異文化を体験し、自分の今まで親んできた文化や生活を考える良いきっかけとなり、視野がとても広がったと思う。

最後に、このようなすばらしい経験ができたのも、このプログラムを提供してくださった毎日エデュケーションの方々や、先生方、一緒に参加した、大学の友人たちのおかげである。本当にありがとうございました。これからも、より遠くの世界を見られるよう、向上心を持って日々努力を積んでいきたい。

写真は、初めて買い物が成功した時のもので、勇気を持って一歩踏み出した経験を思い出すために保存してある。



多少钱？

## 6回目にして見えたこと

文教育学部言語文化学科 2年 菊地真由

中国へ行くこと自体は6回目でしたが、前の5回の行き先は全部上海周辺で今回の語学研修が初めての北京でした。さらに、家族で旅行に行っただけで勉強などは現地でしたことがありませんでした。結局現地で主体的に動いたことがなかったので、不安な気持ちと楽しみな気持ちが混じった状態で今回の語学研修に参加しました。

まず北京に来てみて、はじめに感動したのは食事が全体的に美味しく感じたということです。上海では味付けが甘めなのか口に合わないものも結構ありましたが、北京の味付けは好みでした。それ以外で特に感動したのは本がすごく安かったことです。北京図書大厦で、日本では4冊買えるかな？という値段でなんと7冊も買えてしまいました。スーツケースのお土産を入れる場所に余裕があれば止まらなかったかもしれない、という勢いで買っていました。

ただ、買い物やら注文やら両替やらを今回は全部自分たちで行わなければならないということで不安もありました。最終的には全部できましたが、値切りの茶番劇に付き合ってくれたお土産屋台のおじさんおばさん・筆談で道案内をしてくれた清掃員のおばさん・値段の数字をゆっくり言ってくれた小さな超市経営の夫婦…現地の人びとの協力なしでは難しかったと感じました。

もちろん、動物園のチケットを現地人に紛れて押し合って買う、信号が赤だろうが青だろうがそこに車が通っていないから道を渡る、地下鉄に乗っている時に相手が聞き取れるように大声で会話する…など、日本なら「よい子のみんなはマネしないでね」と言いたくなるようなこともやり遂げてきました。おかげで同室の子には「まゆちゃん、アバウトになったね」と言われるほどになりました。渡航前よりいい意味でアバウトになれているといいですが。

(実は20歳の誕生日を北京で迎えました。その日は自由行動で天壇・王府井に行きました。また、晩御飯は北京ダックでした。そして、2年生3人がケーキを買ってくれました。後日みなさんでパーティーまで開いてくださり、一言で言って最高の誕生日でした。ありがとうございました！)

ここまで見ると遊んでばかりにも思えますが、今回の語学研修で課題として見えたこともありました。それは、発音と語彙力に関することでした。ある日ホテルの近くの超市で店員に「有没有无糖的茶？」と何度も言ったのですが、まるで通じませんでした。ちょうどその時近く

に冯先生がいらっしゃって、先生も「有没有无糖的茶？」と聞いてくださったおかげでなんとか分かりました。一安心したと同時に、自分の発音はまだまだだということを感じ知らされました。そして、北外の先生の話聞き取れることはできたのですがそれに対する返しがうまくできませんでした。話したいことはあってもなんとさえいえないかわからないことだらけでした。

こういうこともあって、ちょっと単純かもしれませんが中国語をもっと勉強しようという気になりました。どんな表現が実際に役立ったかがわかったので、これからの学習に生かしていきたいです。



『都一処』のシュウマイ

## 語学研修報告書

文教育学部人文科学科 1年 木村真央

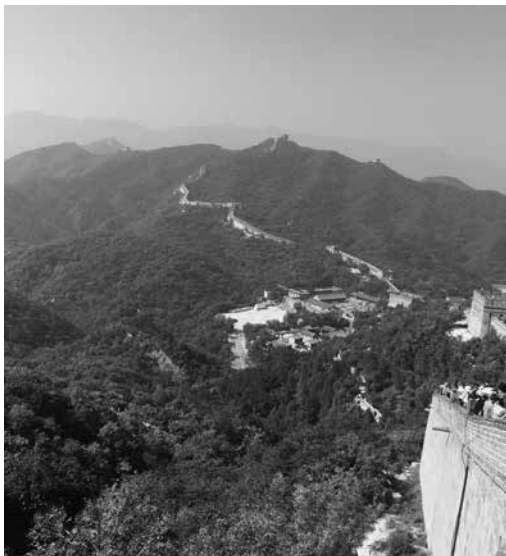
研修が終わっての感想は「楽しかった」に尽きると思います。具体的に一つ何が楽しかったかと言われると……正直、思いつきません(笑)。というのも、午前はオール中国語の授業、午後は北京散策の毎日で己の体力の限界に挑戦するという充実した2週間で、過ごした時間そのものが楽しかったと感じたからです。

とはいえ、これから出発を検討している方に具体的なイメージを持ってもらうために、いい思い出…ではなく、苦勞した思い出を紹介していきたいと思います(笑)。

まずは観光地について。プログラムのツアーや自分たちで世界遺産や中国の有名な観光地へ行くかと思えます。そこでまず思ったのは観光客の多さ。私たちのような観光客だけでなく中国人の方もたくさん訪れています。ひどい時には身動きがとれないほどに混雑する日も(現地ガイドさん談)！世界一の人口を誇る中国を再認識しました……でも人がたくさんいるということはそれだけ見に行く価値の高い可能性は高いのです。実際、人の波にもマケズ…着いた先は素敵な景色ばかりでした。(撮った写真はLI〇Eの素敵なホーム画になります！(笑) 防犯対策をバッチリして、人ごみに負けず挑戦してみてくださいね！)

次に苦労したのは言葉。きっと、海外旅行の際誰しもが心配するところだと思います。安心してください！英語、日本語が通じますよ！……と言いたいところが北京はそう甘くありませんでした（笑）。私の出会った人に限っては……ですが日本人だとわかって早口の北京訛りの中国語しか使いませんでした。特に困ったのが駅の手荷物検査。検査が厳しい駅だとペットボトルの水も検査にひっかかるのですが、駅員の指示が聞こえにくい上にラッシュ時は後ろからのプレッシャー、不審者扱いされそうな恐怖などが2、3分の間に襲ってきました（笑）。ただ、そうした中でとっさに中国語が使えればそれは本物の生きた中国語だと言えます。北京は、確かに日本語や英語に頼れない恐怖はありますが、中国語を学ぶ環境としてはかなりいいところだと思います。

最後になりますが、この2週間ここに書いたこと以外にも大変だったことはありました。でもそういったことが一生心に残る思い出になると思います。このプログラムでは2週間の滞在です。つまり2週間したら必ず日本に帰ってきます。ぜひ、ちょっとした勇気で旅に出てみてはいかがでしょうか？



万里の長城

## 北京語学研修事後レポート「語学の力」

文教育学部人文科学科 1年 小池美緒

高校二年生のとき、イギリスに二週間滞在して行う語学研修の募集がありました。私は高校一年生の頃からやる気満々で、これでパスポートのスタンプも埋まると楽しみにしていたのですが、結局行くのをやめてしまいました。受験のことも少しはあったのですが、最大の理由は、英語の力に自信がなかったことです。もっと言えば、

読解や筆記で多少はできると思われていた私の英語力がさっぱりないことを思い知らされるのが怖かったからです。

この北京研修も、それに似た二週間の企画です。しかし、今回は行くことにほとんどなんの迷いもありませんでした。それは私に中国語の能力が全く無かったからです。申し込んだ時点ではせいぜいピンインの読み方を覚えた程度、結局北京に行く直前だって使えそうなのは「多少銭？」程度です。そんな人が中国人とまともにコミュニケーションしようと思っても、まず無理なことは目に見えています。それは他の一年生もそうだと思います。そういう、「中国語が使えなくてもしょうがない、たぶんみんなそうだし」という開き直りに近い思いがありました。

もちろん、北京に行こうと思った最大の理由は別のところにあります（中国の近現代史に興味があったため）。しかし、ただの旅行ではなく短期留学という形で北京に行くことを決意したのは、こういう気持ちがあったからです。

そういう気持ちで向かった北京でしたが、実際に行ってみて中国語を喋ってみると、やっぱり通じませんでした。授業中は先生の方も聞こうとしてくれるのでまだなんとかなるのですが、それ以外のところでは相手の言うこともわからない、自分が言いたいことも中国語にならない、その上あせると声調がむちゃくちゃになってしまい、何がなんだかわからないという状況でした。

現地の人に道を聞かれたこともありましたが、道を歩いていたらよくわからない勧誘をされたこともありました。全部適当にかわしました。そんなことをしていたら、大学構内のスーパーで、前に並んでいた人の水をいつの間にか買っていたときもありました（お金はもらっているので損はしていないのですが、よくわからない出来事でした）。

そういう生活をしていて感じたのは、「私って、英語できるんだな」という思いでした。何か質問されたとしても英語なら“I don't know”で済んでしまう。中国語が出てこないかわりに、英語の返答ならいくらかでも出てくるような気にすらなっていました。

なぜか中国で自分の英語力に自信がついてしまった出来事があります。私はポケット Wifi を持たず、プリペイド SIM カードを買って中国での通信手段にしたのですが、その容量が途中でなくなり、再チャージすることになりました。再チャージのサイトにアクセスして、Paypal 経由で代金を支払いました。しかし、なぜかいつまでたっても通信環境が復活しません。次の日になっ

でも復活しません。通信会社は中国（香港）の会社です。中国語ではとても自分の意志を伝えられないので、英語でメールを書いてサポートセンターに送りました。電話するように書いてあったので電話しました。これもまたどうしようもないので英語でコールセンターの人と話し、なんとか通信できるようになりました。これまでの英語学習の成果です。6年間大して好きでもない英語をやり続けた成果です。

大学生になり、受験生の頃とくらべて、英語に触れる時間は大幅に減りました。自分の英語力の低下も感じています。このままでいいのか？6年間かけて培ってきた英語力を失ってしまっているのか？そういう思いが、ひしひしと感じられるようになりました。私が北京で感じた最も大きなことの一つです。今まで日本で使うために学習してきた英語が、日本ではないところで使えるのだと気づくことが出来ました。

一方で、中国語に対するモチベーションも高まりました。北京は広く、中国はもっと広いです。まだまだ訪ねたいところがたくさんあります。そして、町中では英語が通じません。次回訪問するときには、もう少しまともな中国語を使えるようになろうという強い気持ちが起こりました。自分の課題が、特に発話において声調がぐちゃぐちゃになりがちというところにあることも判明しています。中国語の目標と課題、それが共に得られたことも、北京で過ごした収穫の一つです。

北京に二週間滞在したことで、私は中国語とともに、英語に対する課題意識を持つことが出来ました。企業訪問の中で強調してお話していただいたことにも、語学的重要性がありました。語学力を身につけることで、ただ就職に有利というだけでなく、自らの可能性を広げること出来る。実際に国際人として働いている方々を見て、お話を聞くことで、そのことを実感として受け取ることが出来ました。今はまだ、仕事として外国語を使っているビジョンはそれほど見えていませんが、とにかく選択肢を増やしておくだけでも、さらに語学を極めていくことの大切さを感じました。

私にとってこの二週間は、英語に対する自信、中国語に対する課題、そして語学に対するモチベーションを得ることの出来た、貴重な二週間でした。



企業訪問先で

## 二度目の北京で

文教育学部人間社会学科 1年 古作優美

今回の研修旅行は、私自身では2度目の北京来訪であった。高校2年生の時に一度、中国へ研修旅行に行く機会があり、その際には済南と北京を訪問した。その時、中国での現地の高校生と多く交流し、中国の良さをたくさん知ることができ、中国のことが好きになるきっかけとなった。しかし、その頃は“你好！”と“谢谢！”しかわからない、といったように、中国語をほとんど知らなかったため、中国にいるのに言葉は全くわからない状態であった。そこから、大学では中国語を学ぼうと決意し、中国語の授業を受けていたところ、今回の語学研修のことを知り、また楽しかった中国へと行くことができ、さらに中国語を学べるというまたとない機会だということで、参加するに至った。

しかし、今回の北京来訪では、初めて行った時とはまた異なった中国を知ることができた。その大きな部分としては、自分たちで自由に行動できる時間が多かったことから、現地で生活する人と直接接する機会が多くあり、生の中国語に触れる機会がたくさんあった、という点である。一度行った時には中国語が全くわからない状態で、研修としての行程についてまわることしか行わなかった。けれど今回の語学研修は、自由時間に自分たちで好きな場所へ自力で行き、食事も自分たちで好きなところを選び、自分で注文するという、自主的な部分が大きく、2週間という短い期間ではあるが、実際に北京で生活しているような感覚を体験でき、そうした中で、中国でも自分は暮らしていける、と感じられた。生活面に関しては2週間過ごしているうちにある程度環境にも慣れ、中国語は当然学び始めたばかりで苦戦することも多かったが、教科書で学んだ中国語が実際に使われている様子を目にし、より中国語の実践的な勉強になるとともに、帰国してからも何かと中国語に反応してしまうように、中国語に目と耳を慣らすこともできた。また、身振り手振りを交えながら伝えようとするれば、なんとかコミュニケーションは取れるものであると実感できる場となり、伝えよう、交流しようとする積極性が重要なのだと感じられた。

また、今回の訪問で、再度中国の良さを実感することもできた。中国語が理解できず、苦勞していた中でわかるまでジェスチャーを交えて何回も説明してくれたり、翻訳アプリを出して助けてくれた店員さんや、日本が好きだと日本語で話しかけてくれた人、そして、北京を案内し、日本語に通訳しながら一緒に脱出ゲームを楽しみ、

後輩であるにもかかわらず食事も全ておごってくれた友人等、様々な中国の人のあたたかさに触れ、またぜひ中国に訪れたいと強く感じられた。そのためにも、もっと中国語を話せるようになりたい、勉強したいと思わせてくれた語学研修となった。

#### 北京語学研修

文教育学部言語文化学科 1年 染矢桃香

語学研修に行く前は初めての海外ということもあり不安要素がたくさんあったのですが、実際行ってみると想像以上に過ごしやすかったです。北京外国語大学での授業はすべて中国語で、最初はついていけないか不安でした。しかし先生が身振り手振り、時々英語を交えながら丁寧に授業を進めてくれたので、何とかついていくことができました。授業では教科書の内容をやるだけでなく、中国の歌を聞いたり、映画を見たりしました。中国の歌は3曲ほどやってクラス全員で歌ったりして楽しく中国語を学ぶことができました。

今回の研修では授業以外に中国の文化に触れるプログラムがありました。故宮や万里の長城に行ったり、京劇や雑技団を鑑賞したりととても楽しかったです。故宮ではガイドさんが説明しながら案内してくれたので、中国の歴史について理解を深めることができました。京劇と雑技団では、ステージに近い場所で見ることができたのでより一層楽しむことができました。大学独自のプログラムとして企業訪問があり、授業は午前中で終わり、上記のプログラムがある日以外は午後が自由時間だったので、様々な場所へ出かけました。中国はどこも広くたくさん歩かなければならないので毎日へとへとになりました。週末には王府井に行ったのですが、王府井には大きな本屋やショッピングモール、商店街があり一日楽しむことができました。商店街では日本では売っていない食べ物がたくさんあったりと日本の中華街とは少し雰囲気が違い面白かったです。パンダのストラップなどを買ったのですが、試しに値切ったところ安く買うことができました。いい経験になりました。

中国と日本の違いに驚いた場面がいくつかあります。一つ目は交通事情です。中国は車が非常に多く混雑する時間帯にはいたるところでクラクションが鳴っていました。また歩行者よりも車が優先され横断歩道を渡るときも注意しなければなりません。二つ目は、物価の安さです。生活費は二週間で二万円ほどでした。

今回の語学研修で中国に対する印象が大きく変わりました。今までは中国に対してあまりいいイメージを

持っていなかったのですが、二週間実際に中国で生活してみて、中国が好きになりました。日本では中国の悪い面が多く報道されていますが、それと同じくらい良い面があることが分かりました。期間はそれほど長くなかったのですが、日本ではできない経験ができてとても充実した二週間でした。海外に行ったことで自分の視野も広がったと思います。最初は不安しかなかった今回の語学研修ですが、本当に行ってよかったです。



「北京動物園」のパンダ

#### 北京新発見

文教育学部 言語文化学科 3年 張 莉佳

中国にどのようなイメージを抱くだろうか。メディアの影響によって、マナーの悪い中国人観光客や反日なイメージ、汚染されて秩序が失われた社会のイメージなどが生成されているように感じる。これらのステレオタイプではない中国の姿を今回の短期留学で十分に知ることができた。以下は、中国北京の意外な一面をピックアップしていきたい。

##### ・電動バス

PM2.5などの汚染による空気の質の低下が激しいことで有名な中国だが、その取り組みはかなり先進に思えた。二階建てのバスや通常のバスが往来する中、最も目にするのがトロリーバスである。中国ではこれを「電動公交车（電動バス）」と呼び、無架線でも充電によって蓄えられた電力で稼働できるのだそう。そして、なによりも中国版のSuicaを使えばバスの乗車代金が日本円でおおよそ16円であることが何よりも驚異的である。また、電通の企業訪問で「中国のバスはスーパーリステイカーだ」という話を聞いた。中国のバスには通常乗務員が常に乗車しており、現金でのチケット販売や車掌のアシスタント業務を行う。実際の体験談によれば、妊婦や老人が乗車し、満席であることを乗務員が確認すると、すぐさま若い乗客に席を譲るよう促すのだそう。

### ・親切なカメラマン

天壇を訪れた際、誰に写真を撮って貰おうと、あたりを見渡していたところ、家族連れの中国の方に頼むことにした。カメラに不慣れながらも、様々な角度からの構図を考え、背後に移りそうな人に一人ずつ声をかけてくれたのだ。なによりも、このような出来事に二回遭遇したことから、私の「いわゆる中国人」というイメージを大きく変えてくれた。



天壇公園で

### ・便利な生活アプリ

中国では海外のSNSを制限していることから、中国国内では独自のアプリを展開している。これは13億もの人口を抱える国であるからこそ成り立っているのかもしれない。そんな中、便利なものを3つ紹介したい。

[YOUKU] これはYouTubeのような動画サイトである。日本では未公開のものや、日本で放送されているものもその二時間後には中国語の字幕付きでアップロードされる。

[吃了么] 出前アプリで、場所を指定すればどこにでも届けてくれる。スタバ、ケンタッキーなどの大手から地元のスーパーまでとそのカバー領域は大きい。お店の口コミや評価も閲覧できるのでとても便利だ。

[QQ音楽] これは中国限定で使用できるものになるが、世界各国の音楽が聴き放題でダウンロードも可能。誤解を招かないために言うておくが、[YOUKU]を含め、著作権関係はきちんと処理されている。

最後に、上記したものは一部の中国像に過ぎない。ただ、この二週間で見たもの・感じたものは日本では決して知ることのできないものばかりだった。国外へ足を運ぶ重要さとその魅力に気づけたのではないかと思う。これからも、視野を世界に広げ、物事を多角的に捉えていきたい。

電動公交车



### 2016年中国語語学研修

文教育学部人文科学科 1年 中島綾美

北京では建物が色鮮やかできれいだったが、何がなんなのかわからないうちに見て回ってしまったので、印象に残った建物の簡単な歴史を調べてまとめてみた。

#### ◎頤和園 長廊・仏香閣

①長廊 昆明湖(頤和園の4分の3を占めている湖)の北岸に沿って建てられている回廊。梁に花鳥画、風景画、歴史画などが極彩色で描かれており、「三国志」や「水滸伝」などのテーマも見られる。中国庭園には、回廊を歩きながら庭を観賞するという特徴があるが、頤和園の長廊ほどの規模のものはほかにはない。

ラッシュのように人がいて、なかなか模様を観るのは困難だったが、ちらっと観るだけでも精緻に描かれていて感動した。

②仏香閣 八角3層、高さ36.5mの、頤和園のシンボルといえる建築。乾隆帝が杭州の六和塔(りくわとう、灯台)を模して創建。1860年のアロー戦争で焼失した後、西太后が再建した。地下には元初代皇帝フビライの皇后「甕娘娘(おうじょうじょう)」の墓があると伝わる。

建物自体も綺麗だが、登って見下ろす景色も綺麗で頑張って登った甲斐があったと思った。

#### ◎故宮 儲秀宮(ちょしゅうきゅう)

西太后が住んでいた所。現存の建物は1655年(清の順治12年)に改修されたもの。西太后の50歳を祝って1884年(清の光緒10年)に大金を投じて改修し、現在も往時の姿をとどめている。

建物というより、西太后の寝台を少し覗くことができたのだが、思った以上に色あせていて驚いた。お化け屋敷のセットのようだった。

#### ◎明十三陵 定陵の地下宮殿

明14代皇帝、万歴帝の陵墓。漢白玉で覆われたアーチ型の天井が美しい。万歴帝は豊臣秀吉の出兵の際、李氏朝鮮に援軍を送ったことで知られる。鄭貴妃という后を偏愛して政治を顧みず、さらに陵墓の建設や外征に出費がかさんで国家財政は破綻した。

ガイドさんから色々な説明を聞いて面白かった。石をアーチ型に組むのは中国で始まったと言われていること、出土品のほとんどが文化大革命で失われたことなど、一番歴史を感じることができた。

#### ◎西単の書店

お客が皆床に座り込んで本を読んでいて、文化の違いを感じて面白かった。

## 語学研修を終えて

理学部数学科 1年 長島 楓

平日は午前中に授業があり、午後からは自由行動でした。授業は中国語と英語で進みました。中国語を学んでまだ数ヶ月しかたっていない私は街ゆく人の中国語を聞き取ることは全くできず、授業中に先生がゆっくり言ってくれる中国語を何とか理解するので精一杯でした。買い物や食事は指をさしたりメニューをメモしたりして行いました。数字は学んでいたのですが値段の聞き取りはできるかと思いましたが、しゃべるのが早く聞き取れないことも多々あり、電卓で値段を打ってもらうこともありました。今回の研修は東京学芸大学の生徒の方も一緒に、私は学芸の2年生の人と行動していたのですが、私より一年長く中国語を学んでいる彼女にわからないことをよく聞いていました。彼女が言っていたのが、聞き取りはできるけど自分の言いたいことをどう中国語にすればいいかわからない、ということでした。どう中国語にすればいいかだけでなく、中国語は発音が難しく、話しても伝わらないこともありました。なかなか伝わらなくて結局ジェスチャーに頼ったり、別の商品が出てきてもこれでもいいかと諦めたり。私に至っては聞き取りもできないので中国人の方もジェスチャーや簡単な英語で伝えようとしてくれました。北京に着いた初日、大学付近を散策していたら迷子になったのですが、道行く人に「北京外国語大学」と書いたメモを見せて「在哪儿？」と尋ねたら最初は中国語で説明してくれたのですが、私にわからないことを察し「Left」と英語で言ってくれ、地図も描いてくれました。のちに授業で道案内の言い方を学び、この時何と中国語で言っていたのか理解しました。言語を学び自由に表現できるようになるまでは難しい、けれど伝えようとする意志も重要なのだとこの2週間で学びました。

北京市内には多くの歴史的建造物がありました。私は三国志の話を読んで以来、中国の歴史や建築物に興味を持っていたので多くの名所が見られて良かったです。観光客が思いの外多く、ゆっくり静かに見られなかったのが少し残念でした。全員で観光した時は詳しい解説つきで、建物を見ながらより歴史に思いをはせることができ、とても充実した観光となりました。

中国で過ごしていてとてもいいと思ったのは電車・バスの運賃の安さでした。観光地内でのバスや船に乗るには少しかかりますが、市内を移動する時にかかる地下鉄やバスの値段は日本に比べて驚くほど安い。市内の端から端まで行くのに日本円で200円はかからないで

しょう。東京で高尾から新宿まで行くのに比べると随分違います。毎日通勤、通学する人にとってはありがたいと思います。

この語学研修で中国の文化、歴史に少し触れることができました。ただ、今回自分は多くの物事に対して受け身だったなと思い、授業も自由行動ももっと積極的に動けばよかったかなと反省しています。それでもこの2週間という時間はとても充実していて参加してよかったと思います。

## 一言では言えない中国

文教育学部人文科学科 1年 長谷川紗也

中国のとある小洒落たカフェで、綺麗な外装に期待しながらトイレの扉を開けた私を待ち受けていたのは、汚れた汲み取り式便所と「大便禁止」の張り紙。追い打ちをかけるように、扉の鍵は壊れて機能しないときた。とんだ外装詐欺だと思ったが、トイレは水が流れない、トイレトーパーがない、中国ではそれが当たり前だった。

街中を歩いていけば、至るところに放棄されたゴミが悪臭を放っている。ハエが飛び回る屋台では、食べ物などとても買う気にならないし、買ってはならない、と危機感さえ覚える。暇を持て余した店番は、座り込んでスマホをいじっている。

ところが、高層ビルが立ち並ぶオフィス街に出れば、街中の様子はガラリと変わる。ビルの中も外もキレイで、整っている。こうしたオフィス街には、東京よりも地価の高い区画もあるという。中国は日本に比べて物価が安い、必ずしもそうとは言い切れない部分も多々あるのだ。また、中国は人件費が安い国として知られているが、日本で働く日本人よりも高い給料を得ている優秀な中国人も多いと知った。

中国人は、赤信号だろうが青信号だろうが、車が来ようが来なからうが、そんなことにはお構いなしに道路を渡る。そのために生じる混雑とけたたましいクラクション。譲り合いの精神なぞ誰も持ち合わせてはいないかのように見える。観光地のチケット売り場などで順番を待って並んでいけば、中国人は当たり前のように列に割り込んでくる。

そうかと思えば、電車やバスではお年寄りや小さい子供などに躊躇なく席を譲る。レストランやカフェでは、中国語が読めず、注文に苦労している私たちに助け船を出してくれる。自己中心的に見えて、実は親切な人が多かった。

「一言で表すと、中国ってどんな国？」と訊かれても、今の私には答えることが出来ない。

中国へ向けて出発する前、私は中国について、見聞きした情報をもとに漠然としたイメージを持っていた。今回、語学研修に参加し、初めて中国を訪れた私は、そのイメージを大きく覆された。実際に中国に行くことで、私の中の中国像は改変されたのだが、しかし、私は新しい中国像を作り上げることが出来なかった。それだけ中国は雑多で、予想がつかない国だったのだ。中国という国、あるいは中国の人々について、とてもでないが一言で言い表すことは出来ないし、一言で全てを括ろうとする必要はないだろう。多種多様だからこそ面白いのだ、と私は感じた。

また、報道と実情は異なっているということを実感した。私が中国のイメージを見失った原因の一つも、これである。メディアが流す情報をもとに中国という国のイメージを持っていた私は、実際に中国を訪れることで、そのイメージが正しくないことを知った。メディアが意図的に選択して流す情報のみを頼りにしては、全体像はいつまでたっても見えてこない。間に他のヒトやモノを介しては知ることの出来ない事実がたくさんある。世界に飛び出し、自分の足で歩き、自分の目で見、自分の頭で考えることが大切だと感じた。

## 満喫しすぎた北京生活

文教育学部言語文化学科 2年 長谷川千晶

朝6時起床、6時45分ホテル隣の「西部马华」というファストフードで朝食。7時40分登校、8時授業開始、12時授業終了。放課後、観光をしつつ昼食、夕食を済ませる。19時20分学校近くの「CoCo 都可」というドリンクスタンドで飲み物を買う、急いでホテルに戻りテレビをつける。19時40分中国ドラマ「麻辣変形計」を見るために待機するがなかなか始まらない。20時10分ドラマを見ながら主演女優のような強く美しい女性になるために腹筋にいそむ。22時ドラマが終わり次第順番に風呂と洗濯、復習を済ませる。23時40分就寝。というのが同室の足立さんと私の2週間のスケジュールでした。この二週間の語学研修は、「西部马华」の酸奶(ヨーグルト)と「CoCo 都可」の「草莓奶盖(果肉入り苺ジュース生クリームトッピング)」と毎日放送していた中国ドラマ「麻辣変形計」の3つに支えられていたといっても過言ではありません。毎日テレビで流れていた、女性アイドルによる「夏日甜心」という曲はこの夏のマストソングです。

この語学研修で痛感したのは、自分の語彙の少なさです。去年一年間の中国語学習の成果を発揮し、先生や店員さんの中国語をある程度は聞き取ったり言葉を発したりすることはできました。しかし、聞き取ることができても返事をするときには的確な表現が出てこない、という場面が何度もあり悔しい思いをしました。一方で、視聴していたドラマの中で数多くの知らない単語に出会うことができました。また、登場人物が表情や動作付きでセリフを発してくれるので、辞書よりもわかりやすくなりました。日本語を勉強する外国の方がアニメやドラマを見る気持ちがわかりました。ホテルにいる間はずっとテレビをつけていたのですが、必ず字幕がついていたこともあってリスニングの良い練習になったのではないかと思います。外出しなくても常に中国語に触れることができる環境が得られるので、ドラマやニュースといった内容にかかわらずテレビは学習に大変役立ちました。

国内の各種メディアでは、日本に比べて中国は「危険、空気汚染、衛生的に問題がある」、といったマイナスのイメージばかりが取り上げられています。しかし、実際の中国は「物価が安い、夏場だと空気はそこまで悪くない(マスク21枚のうち4枚しか使わなかった)、食事もおなかは壊さないし美味しい」といったプラスの印象ばかりでした。日本だと3000円するような辞書が600円で買えます。私の中国生活費のほとんどは本に消えました。

言語文化学科では2年次から各コースに分かれるのですが、去年私は「中国語の勉強が楽しかったから」「池袋に住んでいるとよく中国語を耳にするので勉強しておいたら生活や就職に役立つのではないか」「漢字の字面が好き」といったノリと勢いで中文コースに進むことに決めました。そのため、今回の研修は「中文なのに中国に行ったことがないというのはまずいのではないか」といった後ろ向きな気持ちで参加しました。しかし実際に中国を訪れてみて、「また来たい」と思うほど素敵な体験ができました。また、自分が興味を持って取り組みたい分野についても明確にすることができました。自分探しの旅成功です。

最後に、物の管理は徹底するべきだなと思いました。

## 北京語学研修を終えて

文教育学部言語文化学科 1年 松尾知歩

語学研修の期間は二週間であった。二週間の大まかなスケジュールは、平日の午前中は授業、その他は自由時



間というものである。したがって、団体のツアーもあるものの、自由時間がとても長い。見知らぬ海外の街を歩くのは、それだけで冒険である。習いたての中国語をなんとか使いながら商品を買ったり、電車に乗ったりする。午前中の授業で習った表現を、その日の午後を使うというのもよくあった。

授業は教科書を中心に行われた。前述した通り、実践的な表現が多かったように思う。店での値段の聞き方、道案内の仕方、ホテルの予約などである。また、教科書と同じくらい印象に残っているのが、クラスみんなで何度も歌った歌である。「小苹果」や「北京欢迎您」は本当に何度も歌った思い出の曲である。中国語をより身近に感じるようになった。逆に先生に日本で誰もが知っている曲を聞かれたので、「世界に一つだけの花」や「天体観測」を紹介した。特に「世界に一つだけの花」は公式に中国語版があったので、これもまた一緒に歌った。他にも、授業の最初に、昨日何したのか、午後は何をする予定なのかなどを先生が聞いてくださる。それに答えるために単語を思い出したり、調べたりすることで、学んだことが定着していく感覚はとても新鮮で、学習が楽しくなった。

授業の後や週末にはいろいろなところに行った。頤和園、北京動物園、西単、円明園、紫竹公園、天文台など、どこへも地下鉄とバスと歩きで行った。そんな観光の中で、一番中国語を使うのは、チケットや食べ物を買うときである。中国語を話して、初めて自分で買い物できたときは、とても感動してしまった。中国で食べたものはほとんどどれも美味しかった。美味しいものを食べるには、中国語を話さなければいけない。どうしても無理なときは、筆談をしたが、基本的に、読めない単語もピンインを調べて頼むようにした。それも中国語学習にとってもつながった。

長城の岩山や、故宮の内部などはもちろん、北京の街並みや、お店、公園、どれも知らない景色であり、見ているだけで、興味をそそられる風景や物ばかりであった。とても充実した、濃密な二週間であった。



## 中国研修記

文教育学部言語文化学科 3年 宮崎真帆

今回夏の短期留学ということで2週間の北京研修に行ってきました。実は昨年度の募集の際も参加したかったのですが、他の研修と被ってしまって泣く泣く断念したので今回は念願の北京に行くことが出来てとても嬉しかったです。

午前中は授業、午後は自由時間という時間割だったので、全体的にかなりアクティブに動くことが出来ました。まず授業についてですが、基本的に先生は分かりやすくゆっくり話してくれたので、何を言っているのか分からなくて困るということはありませんでした。教科書に沿った内容はもちろん、中国の遊びや故事の紹介、観光名所や特産についての話もしてくださり、とても有意義な時間になりました。

午後は企業訪問の日以外は殆ど観光地へ出かけていました。私は頤和園、北京動物園、天壇、王府井などに行きましたが、地下鉄やバスなどの公共交通機関が発達しているのも移動に困ることがなかったのがよかったです。特にバスは運賃も安く、ホテルからもバス停が近かったのもよく利用しました。

どの場所もとても楽しく思い出に残ったのですが、その中でも特に印象深かったのは、天壇とツアーで行った万里の長城です。天壇に行った日はとても天気がよかったこともあり、目の前にした建造物の壮観さに圧倒されました。

また、万里の長城は教科書やガイドブックで目にしていたものよりも遥かに広大に感じられました。古代、人の手で造り上げ、何度も修復を繰り返し敵の侵入を防いできたことを思うと、何とも感慨深い気持ちになりました。この場所に自分の足で登れたということ



は忘れがたい良い思い出になったと思います。また、その他の場所もスケールが日本とは桁違いで、どこも驚く程広いので全てを巡るのが大変でした。研修に行く前は、夜によく眠れるのか心配したりもしましたが、そんなことは全く必要ないくらいに毎日疲れ果て、あっという間に寝てしまっていた程です。

また、この研修は2週間と短期間ではありましたが、

その中でも日中の文化の違いを感じる場面も多くありました。その国に飛び込んでみて肌で文化を感じることも、日本という国を海外から見つめ直すということも、その両方がとても大切であるということを改めて意識する旅になりました。全体として得るものの非常に多い、有意義な研修だったと思います。サポートして下さった全ての皆様に感謝の思いで一杯です。

## 北京生活 2 週間で感じたこと

文教育学部人文科学科 1 年 吉富帆乃夏

私は、中国語は 4 月から第 2 外国語として勉強を始めたばかりだったうえ、正直普通の授業についていくのが精一杯というレベルでした。また、海外旅行は小学生のときに 1 度したことがありましたが、そのときは周りの大人が全て面倒を見てくれたため、外国で自力で生活するという経験は今回の語学研修が初めてでした。そのため、北京に行く前は、日本とは言語も環境も異なる世界で 2 週間もやっていけるのかという不安がありました。また、中国は空気も街も汚いというイメージが強かったので、それも気がかりでした。

そして実際、北京での生活が始まると、日本との違いに戸惑うことが多く出てきました。例えば、紙や鍵がないことも多いトイレの設備や、不愛想でがさつに感じてしまう店員の態度、頻繁にクラクションを鳴らして勢いよく突っ込んでくる車通りの多さなどです。しかし一方で、通りの景色や地下鉄の仕組みなど、日本とよく似ていると感じるところもたくさんありました。街並みは整備されていて、スーパーやコンビニなどでは物資も充実していました。想像していたよりずっと北京は暮らしやすい街だと思い、北京での生活にすぐになじむことができました。

授業は習熟度別少人数制で、自分のレベルに合っていました。教科書は日常会話に登場する身近な表現を扱っていて、先生は基礎的な中国語と英語を使って説明してくださったので、わかりやすかったです。授業では、習った表現を使って自分で話したり作文したりすることをメインに練習しました。時々歌や映画も扱って楽しかったです。

平日の午後は自由時間だったため、仲良くなったお茶大生と毎日北京観光に繰り出しました。テレビや本で見たことがある場所はだいたい訪れることができ満足です。

北京に来て最初の頃は、冰淇淋だ！図書館だ！超市だ！と、教科書に載っている単語を街で見付けてはしゃいで

いましたが、後半になるとあれも言える！これも読める！と、メニューや案内板を見ながら知っている単語や読める漢字が格段に増えたことを実感するようになりました。とはいえ、現地の方々と実際に会話するにはまだまだで、自由行動での料理の注文、チケットの購入などでは、聞き取れず聞き取ってもらえずとても苦労しました。授業では先生がゆっくりはっきり繰り返し発音してくれましたが、日常生活ではそうはいかず、必死に耳を傾け、指差しや筆談も交えながら伝えました。しかしその中で自力でコミュニケーションを取ることができたときは、今相手が言ったことわかった！私が言ったこと通じた！と、とても嬉しかったです。振り返って後悔していることは、自分の中国語にあまり自信がなかったため、得意な友だちにまとめて注文してもらったり通訳してもらったりして現地の人と話す機会を生かしきれなかった場面が多かったことです。恥ずかしがらずもう少し自分から話していけば良かったと思います。

今回の研修を通して学んだことは、ある言語を身に付けようと思ったら、座学だけに留まらず、その言語が実際に使われている世界に飛び込んで、その言語に浸かってたくさん聴いて話してみることが本当に効果的だということです。また、外国の文化や生活を体感する意味でも、現地を訪れることは大切だということも知りました。現地で過ごしていなければ、北京（というか中国）は整備されておらず住みにくいところだと思い込んだままでした。

研修中、日本に帰りたいたいは 1 度も思いませんでした。むしろ日程が過ぎるにつれ、もっと北京にいても良い、このまま日本に帰ってしまうのはもったいないという気持ちの方が強くなりました。

実は私は、語学というより観光につられて今回の研修に申し込んだ部分が大きかったのですが、参加して本当に良かったと心から思っています。語学の面でも観光の面でもとても充実した 2 週間になりました。これからも中国語の勉強を頑張りたいし、また中国に行きたいと思います。



\*\*\* アドバイザーから \*\*\*

皆さん、ありがとう

首都師範大学 蒲夏禹

現地アドバイザーとして、皆さんと一緒に暮らすというこんな貴重なチャンスを二度も得られるとは思ってもみなかった。今考えても、それは私にとってとてもいい二週間だった。

チャンスというものは、常にどこからか飛んでくる、思いもしない時に。はじめて現地アドバイザーをしたのが私にとってそのチャンスだったかもしれない。結局何もしなかったと感じながら二週間の時間を過ごした。学生の皆さんの評判がよかったと聞いても信じられなかった。だから今回お話をいただいた時も、今度もそうなるかもしれない、そもそもどうして私なんだろうと思った。何度も行った場所も迷わずには行けない方向音痴と言われるくせに、信頼されるアドバイザーが務まるのか、という不安を抱きながら、先生からの誘いを引き受けた。空港はやはり広いな。こんな広い中、みんなを迎えに来ている。そう考えると、縁の不思議さのようなものを感じた。出会いとは奇妙なものだ。この二週間、みんなと一緒に食べたり、遊んだり、いろんなことを試したりして、本当に楽しかった。一期一会かもしれないが、また会える可能性もあるだろう。そう思うと、幸せな気持ちが抑えられない。

空港は不思議な場所でもある。そこから始まる。そしてまたそこで別れる。それはきっと「終わる」ではない。人と人の繋がりには色々な形がある。いつも愛用しているペンがなくなっても、縁があったらまた出てくるかもしれないと思うから、私は探したりしない。人と人との出会いとか、別れとかも、たぶん運命なのだろう。焦らず胸を張って、いいものも、あんまり良くないものもすべて受け取るのが楽、と自分勝手に信じている。それはネガティブな考え方だろうか。いや、さまざまな可能性、人間の可能性を信じているのだから、むしろ積極的な考え方と言えるだろう。

そう考えると、二度もこんなことをできたのは、たぶん気持ちのおかげだろうと思う。本当にありがたいことだ。皆さんと出会ったからこそ、こんな貴重な経験ができた。出迎えの準備、ホテルのチェックイン、日程の確認、困ったときの解決策……こんなふうに誰かに必要とされるのは本当に幸せだ。

よく考えればいろいろ感謝しないといけない。先生方、学生の皆さん、旅行社の方と、各方面から助けてくれた

方々に、ありがとうございました、と心から言いたい、叫びたい。聞こえないなら、行動で感謝しよう。これからも頑張ります。迷わず、戸惑わず、しりごみせず、胸を張って挑戦していきます。失敗するかもしれないけれど、挑戦すればきっと何か実る。すべての出会いはきっと何か意味があると私は信じているから、皆さんとの出会いをずっと大切にします。



大学図書館前で

### \*\*\* 引率教員から \*\*\*

#### 研修を通して学ぶ

外国語教育センター 馮 曰珍

第2回となる本年度の研修は北京外国語大学の要請で、9月の入学時期を避け8月14日～27日の二週間の実施となった。日程のほかに前回と大きく異なった点は授業と史跡見学、伝統芸能鑑賞を東京学芸大学の学生と一緒にいったことである。その結果、本学と学芸大学の学生併せて30名を1年生2クラス、2、3年生1クラスに分けることができた。教材は3クラスとも同じ教科書であったが、1年生は教材の内容に沿って基本的なことを学習した。2、3年生には内容が簡単だったようだが、オール中国語で進む授業で、学生はより多く聞く、話す練習ができたようだ。

学生の生活面では大学の繁忙期を避けたこともあり、宿泊先は大学敷地内にある大学のホテルで、学生は徒歩で教室に行くことができた。教室も長期留学生の授業が行われている中国語文学学院の教室が使われた。さらに今回は学生証のほかに学食、図書館などの大学施設が利用できるプリペイド式の学生カードが支給された。生活面では長期留学生と同じような留学体験ができたと思う。

学生カードが出来上がった日、学生たちは早速教室棟の向かいにある学食に向かった。残念ながら引率教員にはカードは支給されないので学食は利用できなかったが、この日だけは学生のカードで払ってもらい、後で現金で払って学食体験をさせてもらった。料理の種類が思いのほかたくさんあり、選んだ料理を大きな玉じゃくしで仕切りのあるプレートにたっぷり入れてくれる。ごはんやマントウなど主食も色々選べて楽しい。それで10元分も食べたらおなか一杯になるのだから食べ盛りの大学生にはありがたい。

短期研修の最大のよさは学んだ言葉をすぐ使える場があるということだ。使わなければ食事にも困ることになるのだ。学食では指差しと食堂のおばさんの機転で何とかトレーを一杯にすることができるが、料理名がちゃんと言えたらと思う。お店で店員さんに欲しい物を伝えるが通じない。発音をもっと上手になろうと思う……。悪戦苦闘の二週間の研修で自身が気づけるほどの成果は感じられないかもしれないが、引率の私たちは現地で何かできた瞬間が最大の成果だと思っているし、その後の学習意欲に確実に繋がっていると思う。

#### 一週間の引率を終えて

外国語教育センター 曹 泰和

今回私は後半の引率だった。私より一週間前に到着していた学生たちはすでにいろいろなところを観光していたようで、私と会った時にはもうだいぶ北京に慣れたような顔つきになっていた。私が着いた当日の夜は、ホテルから徒歩30分くらいのところにあるレストランで北京ダックを食べることになっていた。かなり遠いにもかかわらず学生たちだけで店まで来ることができ、本当に感心した。

午前中の授業を何回か見に行った。授業は全部中国語で行われ、たまに英語で説明することもあった。また教科書だけではなく、パワーポイントを使い学生に中国の食文化、アニメ、歌などの動画を見せながらの授業も行われ、実に内容豊富なものだった。午前中に習ったことばを午後の自由活動で実際に使ってみたと学生から聞くこともあり、これが現地での学習の強さだと思った。

後半のイベントは万里の長城、明の十三陵、国家博物館への見学、雑技鑑賞、企業訪問があり、これらは大多数の学生にとっては初めての体験である。私はというと、今回初めて学生を連れて北京のKDDIを訪問した。KDDI側も学生の見学を受け入れるのは今回が初めてという事で、とても周到な準備をしてくださった。見学の当日にはKDDI中国・総経理（社長）が自ら会場に来てくださり、グローバル企業としての話をしてくださった。また部長、副部長、社員の方がそれぞれ海外で経験した様々なエピソードを紹介してくれた。このような企業見学は、学生たちにとってきっと貴重な経験となったに違いない。

私は二十数年前に北京で会社勤めをしており、2年ほど住んでいたことがある。北京に行く度に変化を感じていたが、特に今回感じたことは、会計の際に多くの方がスマートフォンを使って決済するということであった。それからもう一つは北京のセキュリティーの厳しさである。地下鉄の“安检”では、“试喝”“喝一口”と持っていた飲み物を一口飲むように言われ、少し驚いた。

短期留学を経て、長期留学に行くこと決めた学生もいた。留学は生涯の中では短いものかもしれないが、それによって得られたものは計り知れない。今年はずっと多くの学生が積極的に語学留学に参加するのを心から期待している。

\*\*\*アルバム\*\*\*



授業風景①



授業風景②



会社訪問①



2016年7月25日，“2016中国4A金印奖”为北京电通设计的AI人工智能的程式创造的海报，出现在上海地铁13号线，这是中国4A正式启动“2016中国4A金印奖”后，推出的作品征集活动中的



日本御茶水女子... 3天前

2016年8月19日下午，日本御茶水女子大学师生一行20余人到访北京电通，通过访问在华日企了解海外工作必备的技能以及实战经验，从而为学生日后选择海外工作提供参考和借鉴。



电通发现 | 201... 10天前

北京电通代表出... 12天前  
2016年8月9日，“发现大连城市品牌形象高峰论坛”在大连国际会议中心举行。北京电通第

ホームページにも載せていただきました



会社訪問②



会社訪問③



明十三陵



天安門



京劇



雜技



学食で



再见！





2016年中国語短期語学研修報告書

中国語語学研修準備・実施委員会 編

(宮尾正樹、曹泰和、馮日珍)

2017年3月 発行